

てんりゅうむら しもつきかぐら  
**天龍村の霜月神楽**

命を蘇らせる春迎えのお祭り

毎年正月の1月3日から5日にかけて、<sup>むかがた</sup>向方地区(天照大神社 お潔め祭)、<sup>きよめ さかんべ</sup>坂部地区(諏訪神社 冬祭)、大河内地区(池大神社 例祭)で行われる冬祭り。いずれの祭りもかまどを築いて湯をたぎらせ、それを神々に献じてから人々に振りかけて魂を清め、同時に神歌をうたい、あるいは舞をまうという湯立神楽の形式をとどめており、祭り全体から水の神聖さが伝わる。水を利用した神事は、様々な水象現象に繋がる。1978(昭和53)年、国重要無形民俗文化財に指定された。3地区のうち坂部は、仮面の舞など豊富な内容をもっている。



宮人が捧げ持つ松明をまさかりで切る「たいきり面」(坂部・大森山諏訪社)

面をつけ火の回りを舞う  
(大河内・池大神社)



剣を持ち、鈴を鳴らし、袖を翻して舞う  
(向方・天照皇大神宮)

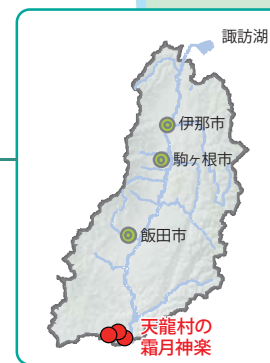
information

□ アクセス

天龍峡ICから45km  
車→1時間30分

□ 所在地

天龍村向方、坂部、大河内



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)

冬至と  
霜月神楽

神楽の特徴

神楽は、本来、旧暦霜月の冬至の前後に夜を徹して行われた。冬至は、太陽の死と再生を想起させ、すべてが再生する重要な節目とされた。聖なる湯を沸かし浴びる天龍村の霜月神楽は、生命のよみがえりを願って行われる。

天龍村・霜月神楽の特徴は二つある。一つは、湯立を厳粛に、くり返し行う点、もう一つは、湯立が特定の職掌だけでなく、集落をあげて大規模に行われる点である。